

市民検討委員会の発表概要(施設機能)

項目	小項目	1班	2班	3班	4班(機能については他班と同意見)	専門委員コメント
大ホール	全体	<ul style="list-style-type: none"> ロック・ポップス・ジャズなど、メジャーどころのコンサートを小田原で行いたい。 市民ミュージカルなどを行いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 多目的なホール。 プロセニウム形式の舞台。 オーケストラピットは、整備コストを踏まえた検討が必要である。 シンプルで使いやすいホール計画とする。 		<ul style="list-style-type: none"> 色々な催しに利用したい。 入場料金がとれる事業がしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民ミュージカルやロック、ポップスなどについてはホールとして対応できる。 オーケストラピットについては、本来の使い方の他に前舞台としてや障がい者のリフトとしての使い方も想定できるためあった方が良く考える。 「十分にオペラが上演できるように」というキーワードは、演劇系、音楽系、両方を満足させる機能を備えることを意味するということが良い。 オペラは問題なく上演できる。極端なことを言えば、オーケストラピットがなくても上演できる。 コストのことを考えると、設備の一部は借りてくることなどで対応し、あまり重装備なホールにしない方が良く考える。 映画を上映するのであれば、上映ごとに持込むという選択肢もある。 大ホールについてはほぼ全ての班で意見が一致ということなので、今後具体的な検討に入っていいのではないか。 大ホールロビーを展示スペースとして貸出すのは現実的には難しい。なぜなら、そのスペースを展示場所として貸出した場合には大ホール自体が貸せなくなるからである。
	舞台	<ul style="list-style-type: none"> 大ホールの舞台について、ミュージカルなどのことを考えると、間口10間、奥行5間などが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 間口は8～10間、上手・下手の袖は4～5間、奥行は6～8間程度を想定してはどうか。 手引きボタンと電動ボタンについて要検討の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 舞台の設備として字幕スーパーが必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> 手引きボタンを十分に操作できる技量を備えた舞台技術者は少なくなってきている。また今日では高い性能を備えた動力ボタンが増える傾向にある。 全国的に新しく整備される主要な施設では、動力ボタンを導入する傾向にある。
	客席	<ul style="list-style-type: none"> 客席、1,000～1,200席で、500席や700席といったように、中ホール規模のホールとしても利用できるようにしてほしい。 車椅子席が客席の端に追いやられないようにしてほしい。 ホールのドアの側に、スタッフが座れる収納式の椅子を付けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> どこの席からも観やすい客席構造を検討する。 神奈川芸術劇場の3階席は怖かったので2階席までとし、多層バルコニーは防災上の観点からも避けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 座席の前後左右をゆったりとり、高級感のあるものにして欲しい。 座席はメンテナンスのしやすいものにして欲しい。 サイトラインに配慮し、千鳥配置を検討する。 車椅子席、ベビーカー置き場をしっかりと取って欲しい。 バルコニー席を設けて欲しい。 オーケストラピットが必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> 客席はゆったりとした感じも必要だが、劇場として、席が近いことによる観客同士の一体感があってもよいのではないか。あまりゆったりとしていると間延びした印象になってしまう。3時間程度は座っても身体が痛くならないことを前提に、劇場・ホールの鑑賞に適した座席とした方が良くはないか。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが泣いても気にならない部屋、別の空間で親子で鑑賞できる親子室が欲しい。親子だけではなく、障がい者の方なども利用できたらいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 舞台裏に使いやすい通路を整備する。 映像設備もほしい。 音響設備の周波数についても十分に検討すること。 大ホールに附属する練習室がほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 内装は木を使用したい。寄木細工も取り入れていきたい。 完璧なオペラが上演できるような設備が欲しい。 		

項目	小項目	1班	2班	3班	4班(機能については他班と同意見)	専門委員コメント
	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・小ホールについては二宮のラディアンが音響がいいのではないかと、参考にしてほしい。 ・小ホールについては班の中でも大変もめた。 ・南足柄はあまりいい小ホールではないが、稼働率が70%を超えている。小田原に音のいいホールをつくるともっと利用率が上がるのではないかと。 ・特に、小田原ではピアノや歌を行っている先生が多いので、音にこだわったホールとしたい。 ・小ホールは音に特化した、日本一のホールを目指したい。 ・是非、全国に誇れ、近隣の人が使える、料金も安い、固定椅子を備えた小ホールをお願いしたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・小ホールの基本的な設備は、大ホールと同じように計画する。 ・市民参加、幼稚園、小・中学校の利用、えっさほいの練習、発表会など子どもをメインとした活動を色々やって欲しい。 ・子どもたちが本物を鑑賞できる事業を行ないたい。小規模でも音楽会、演劇会、映画会を行いたい。 ・大ホールでは行えないような小編成のジャンルを問わないコンサート、良質のものを上演して欲しい。 ・自分が劇団を主宰しているので、芝居小屋をイメージしている。現在は横浜や下北沢を利用するしかないので、小田原にその空間が欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化を発表したい。 ・子供達に古典芸能を鑑賞させる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小ホール機能の一部がリハーサル室で代用できるのではないかと意見は重要な視点である。 ・芝居小屋が欲しいというのは、結果的に芝居小屋になればよいことである。紀伊國屋ホールや本多劇場では、アマチュアが使うには少し大きい。ザ・ズナリや相鉄本多劇場程度だと相当コンパクトになり、小田原でも実現できるだろう。こういった声を詰めることで実現できることが沢山あると思う。 ・小ホールでは、古典芸能と外国文化という明確なキーワードも出てきた。これをどうするかについても考えていかなければならない。 ・古典芸能系の稽古には太鼓を用いることがあるので、他の団体との利用の兼ね合いに配慮が必要である。支援系機能の部分で検討していきたい。 ・マルチスペースを活用して小ホール機能の一部を担わせるという新しい視点を見つけられたことが良かったのではないかと。 ・小ホールについては、可動式の可能性を残したのには、表現機能を残せたという点ではひとつの検討結果と考える。
小ホール	客席	<ul style="list-style-type: none"> ・平土間と固定客席で意見が分かれた。 ・固定客席と平土間のふたつの選択肢があり、どちらかだけでは決められない。 ・固定席と平土間・ロールバック式の2つを造ればよい。 ・音楽系の固定客席のホールと、平土間のホールで方向性をわけて整備する。 【固定席】 ・藤沢市以西に固定椅子を持つ本格的な小ホールをもった公立ホールがない。 ・平土間のホールは多くあるが、近隣の公立ホールに固定客席の小ホールがなく、整備すべき。 ・ロールバックが嫌な意見として、歩く音や音のする、可動式は使い勝手が悪い、座り心地が悪い、足音が響く、すきまが危険、落ち着かない、咳やくしゃみをしただけで椅子が揺れる、メンテナンス費用がかかるといったことが上げられた。 ・ロールバックの客席に不満を持つ方や団体は少なくない。 ・固定椅子で、音に特化した小ホール。市内では演劇よりも音楽の利用が多いと感じる。 ・小ホールは市民利用が多くなるので、200～300席の音響の良い固定式が、市民にとっては一番利用しやすいのではないかと。 ・使い勝手第一で、日本一を目指したい。 【平土間】 ・大ホールの主舞台と同じ床面積を確保し、リハーサル室としても使用する。防音性能が必要なので、地下の有効利用も考える。 ・リハーサルや様々な催し物にも使用できるマルチな機能を備えた部屋を整備する。 ・高さは4m、ライティング設備も欲しい。また、ステージの位置を自由に変えられたり、youtubeを利用できたり、様々なことが行なえ、若者による新しく多様な活動にも対応でき、将来的に考えられる様々なイベントに耐えうるものにした。 ・特に、若者が自由な発想で活用できるスペースにしたい。 ・平土間で行いたいような催し物は、リハーサル室のひとつを広く造り、そこで行えるようにする。 ・平土間も捨てがたい。大ホールの主舞台と同じ床面積のリハーサル室が欲しいという意見があり、それを第2小ホールとし、平土間で200～300席の様々な活動ができるマルチスペースとして計画する。 ・平土間のホールは、色んな若い人たちが新しいことをできるようなホールとしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示との共用は認めたくない。 ・固定式の多目的ホールと平土間のホールで意見が分かれています。 ・音楽あるいは演劇のためのホールかで意見が分かれています。 ・音楽用になると演劇用の舞台設備が制約され、音楽用になると台詞の明瞭度が制約される。 ・多目的にした場合、演劇・音楽共に制約される。 【固定席】 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定客席にするか平土間にするかで意見がまとまらなかった。 ・演劇・音楽・ダンスなど様々なジャンルの人が使えるので平土間の方が良いのではないかと意見がでたが、固定式の方が良いという意見もあった。 【固定席】 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定席か平土間かで意見が分かれた。 ・固定席であれば、県西地区に固定席で充実したホールがないので、稼働率が上がるのではないかと。 ・小ホールを平土間にするか固定客席にするかという点で非常に悩めたが、平土間として利用できる別のスペース(マルチスペース=多目的ホール)を確保することで意見がまとまった。 ・小ホールを固定にするのであれば、プラスで300㎡程度のマルチスペース(多目的ホール)を設置することで対応する。また展示系の催しであれば、展示系機能とマルチスペースを両方使うことや演劇・音楽系の催しのリハーサル室の場として利用できる。 ・大ホール、固定席の小ホール、展示機能に加えてマルチスペースが必要なのではないかと。 ・小ホールは固定席で造る。その対案としてマルチスペースをつくることで、リハーサルや展示など小ホールを平土間で使いたいという用途に対応する。 【固定席】 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル室を第2小ホールにしようということが検討のポイントだった。しかし、今後これを実際の図面に落とし込んでみると面積の都合上、第2小ホールまでもが整備できないこともある。その場合には、運営や利用方法を含めた検討がさらに必要になっていく。
	その他		<ul style="list-style-type: none"> ・舞台裏に使いやすい通路を整備する。 ・市内の施設との機能分担を考える必要がある。 			<ul style="list-style-type: none"> ・他の施設と機能の共有化を図った上で、市民会館機能をどのようにまとめていくのかということは、今後市民ホールの完成まで継続して考えていく必要がある。 ・各施設間の連携は大変重要。近隣の既存施設も含め、今後の展開を議論していく必要がある。

項目	小項目	1班	2班	3班	4班(機能については他班と同意見)	専門委員コメント
大小ホール 附属諸室	楽屋	・和室を1室整備して欲しい。 ・楽屋の隣に練習室を造って欲しい。 ・舞台モニターを設置してほしい。	・大ホール、小ホール専用の楽屋が必要である。 ・シャワー室も整備する。	・近代的な楽屋が必要である。 ・楽屋周りにピアノ付きで音だしが可能な楽屋が欲しい。 ・和室楽屋、シャワー室、練習室がほしい。		・和室楽屋をどうするのかは検討が必要。
	トイレ	・女性トイレを多く造りたい。男性トイレよりも多めに造ってほしい。 ・女性トイレには節水の為に音姫を備え付けて欲しい。	・女性トイレの個数は多く整備する。			
	搬入	・展示室のバックスペース、入口の反対側に搬入車両が寄り付ける搬入口を造って欲しい。展示台など重いものの搬入も考えられる。		・舞台後方からの搬入ができるようにしたい。		
	ロビー	・ロビー・ホワイエの居心地を良くし、社交場としての機能を大切にしたい。愛を語れるスペース、誰でも利用できる憩いのスペースがあればなお良い。		・ホール・ロビーは、美しくゴージャスにして欲しい。		
展示	<ul style="list-style-type: none"> ・小田原という地域を発信できる全国規模の公募展など、有料の展示もどんどん行ってほしい。 ・展示室はフラットな空間なので、展示だけではなくワークショップなどでも活用してほしい。 ・可動パネルは、簡単に移動ができるものがよい。 ・天井高は4mがベストではないか。 ・華道展示などを考えると展示室のバックスペースには必ず水場を造ってほしい。 ・使い方によればお茶などもできるだろう。そのため水場を造ってほしい。 ・野外を利用して展示を行ったり、様々な利用ができる仕組みをつくってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンプルでパーテーションで区画できるようにしたい。 ・大きな作品もあるので、そのことに配慮した搬入口とバックヤードが必要である。 ・天井にものを直接吊れる構造と設備が必要である。 ・展示壁には直接ピンが刺せれる仕様が必要である。 ・現代アートの展示も考え、電気設備等も整備する。 ・電気設備等の増設が後からできるように配慮したい。 ・他の機能の併用は考えなければならないが、会議室等との併用はやめるべきである。 ・搬入動線と観客動線が重ならないように配慮する。 ・高さは高く、広いほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県立美術館の巡回展、小田原ゆかりの作家の展覧会、学校の書道や小田原ちょうちんの展示などを行いたい。 ・展示物のサイズを問わず、良い照明環境が必要。天井全体がやわらかい照明が理想的である。スポットは移動式とする。 ・平面作品用の展示パネルは、上質のもので長く使用できるものが良い。 ・様々な展示に対応できる展示壁を採用して欲しい。 ・天井高について、平塚美術館程度の高さがあるとうい。 ・床、壁は汚れに強い素材を使って欲しい。 ・展示スペースでも、演劇・音楽などを発表できる工夫をして欲しい。 ・本当は小田原に美術館が欲しい。 ・400㎡の展示スペースができれば、美術館でやるようないい展覧会ができると思う。 ・学芸員を置いて、年間自主企画を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トークショー、参加型ワークショップなど、いつも何か展示されていていきたくなる様な催しがある展示室をほしい。 ・現代アートの魅力に触れるイベントを開きたい。 ・大ホールに付随したロビー、けやきの展示室を利用するという案もでた。 ・インターネットの配線、ワークショップスペース、図書館機能、水場、作品保護の空調・照明設備、ミュージアムショップが必要である。 ・天井の高さは4m必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめられた意見については取り込んでいきたいが、展示機能+αの部分をもどのように考えていくのかは議論が必要である。 ・展示の搬入は、裏からは当然として、催し物が重なった時には表側の建物入口からも搬入できるようにした方がよい。 ・展示室の壁はピンなどを打つので、消耗品として考えた方がよい。 ・他の諸室を展示機能の代用として利活用することや展示室に他の機能を複合させることも検討する必要がある。しかし、まずは展示機能をしっかりと確保することが第一義的に重要である。 ・今回の市民ホールにおける展示室の位置付けを小田原の美術館だと考える人はいないだろうと考える。 ・展示室がいつでも利用で埋まっているということが、アートシーンの覚悟を決めるのだと考える。 ・400㎡は、デパートの美術館よりも少し広いので、場合によっては展覧会ができることもあるだろう。 ・展示系に関しては、バックヤードが大変に重要である。 ・美術館にガラスケースを用意することがあるが、博物館ではないので必ずガラスケースに置いて展示しなければならないのは、掛軸や屏風など日本の古典文化財くらいになるだろう。昨今の美術館では、フレンドリーな形で作品を鑑賞できる。そのような展示スペースができれば良いと考える。 ・お花やそれにとまったお茶会を考えれば、水場が必要である。また、それがきちんと使えるものであれば、素敵な展示スペースになるだろう。 	
支援系機能		<ul style="list-style-type: none"> ・託児室を造ってほしい。空間を作るだけでなく、子どもが泣いても外に音が漏れない遮音性能や裸足で歩けるような安全性を確保して欲しい。 ・託児が必要な事業が行われるかどうかは今後の事業の在り方次第なので、まずは託児室として利用できるスペースは確保しておく必要がある。 ・託児室は、誰が責任を持って運営するのかという課題がある。何か起こったときに客席内にいる保護者を呼ぶ手段も検討していかなければならない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・託児室、キッズスペースが欲しかったという声が多かった。大ホール・小ホールにひとつずつあれば良いのではないか。子どもの声がホールに聞こえないように、カフェなどの交流系機能の近くにまとめればよいのではないか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・諸室については、バックヤード以外に大変多くの検討のポイントがある。 ・託児室の問題は、今後の運営の段階で検討されるべきことだと考える。これからは、若いお母さん達にも子どもを預けて公演を観る機会が与えられるべきだと考える。今まで劇場に足を運んできたお母さんたちが子育てで10年くらいホールに来られないと言うことは、観客を失うということになる。 ・親子室の提案は、将来的にもとめられる機能ではないか。 ・子どもが自由に遊べるキッズルームがあれば、お母さんは子ども遊ばせてる間、散歩や読書をして過ごすことができるので必要な機能だと考える。
創造系機能	リハーサル室	・楽屋の隣に練習室を造って欲しい。			・リハーサル室を整備してほしい。利用形態に応じてリハーサル室でも公演が行えるようにしたい。	・リハーサル室を充実させたいとのことだが、何室いるのか、大・中・小の大きさはどうなのか、具体的な検討する必要がある。
	スタジオ		・練習室がほしい。 ・リハーサルができるような練習室がほしい。			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・アトリ作業ができる場所、造りかけのものを保管できる場所があるといいのではないか。 ・ワークショップができる工作室などのスペースが隣にあるといいのではないか。 				

項目	小項目	1班	2班	3班	4班(機能については他班と同意見)	専門委員コメント
交流系機能		・愛が語れるような素敵な喫茶店が欲しい。	・カフェや交流サロンなど市民が交流できる空間を計画する。	・50席～100席程度のカフェが欲しい。 ・ミュージアムショップが欲しい。 ・カフェの話が多く出た。小田原市内にはレストランなどはあるが、カフェは少ない。演劇の台本をその場で読めたりアーカイブを見れたり、オープンカフェとしてロビーと近い距離に置き、オープンライブを行ったりできればよい。	・あまりお金をかけずに文化に触れられるスペースがほしい。	・ホールを歴史を残したい、という発想はとても興味深い。
バリアフリー				・全体的に弱者に優しいホールということを皆さんと話し合った。		
バリアフリー※ (5班)		<ul style="list-style-type: none"> ・大ホールにスロープが欲しい。 ・座席の間にスペースがあると動きやすい。 ・車椅子席は前方や後方ではなく、中間くらいにほしい。また、団体が鑑賞できるスペースがあると良い。 ・座席を外して車椅子席を設けた場合、床に段差があると不便なのでフラットにして欲しい。 ・階段など、暗いと判別が難しいので、照明を設けるなど段差が分かるようにして欲しい。また、滑り止めを設置して欲しい。 ・聴覚障がいのある方は、公衆のFAXがあると便利である。 ・エレベータの設置は必須である。大きな車椅子を利用する方もいるので、20名以上が乗れるエレベータがあると助かる。 ・エレベータについて、中の様子が外から見えるように透明だと助かる。また、文字で「満員です」といった表示がブザーと併用であると良い。 ・エレベータはわかりやすい場所に設置して欲しい。 ・トイレについて、多目的トイレが2つ程度あると助かる。また、男女共用が望ましい。 ・トイレを流す際のバルブの位置について1カ所ではなく2カ所あると良い。 ・トイレの入口は電動で開くタイプが良い。 ・トイレの大きさについて、車椅子の大きさが人それぞれなので、大きい方がいい。 ・和式や洋式の種別が分かりやすく表示されていることが望ましい。 ・トイレのスイッチの設置位置は統一してほしい。視覚障がいのある方は、場所が統一されていないと手探りで探さなければならないことになる。 ・字幕はあった方がよい。 ・要約筆記のスペースを設けてほしい。 ・入口にはスロープを設けてほしい。 ・事務室などもバリアフリーにして欲しい。 ・エレベータが停止した際の避難経路を考えてほしい。 ・地下駐車場があると雨などの場合濡れないので助かる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・現在、大ホールでは1000席から1200席が想定されているが、1200席の劇場が建設可能なスペースに1000席のホールを造ることでゆとりという新しい可能性がでてくるかもしれない。バリアフリーに配慮した施設は今後注目されると思う。 ・5班でまとめられたバリアフリーについての意見は、市民検討委員の皆さんから出されている機能と、十分に両立することができる。 ・劇場というのは特殊な空間のため、全ての場所に車椅子で移動することは難しい。しかし、できるだけ多くの裏回りスペースに車椅子でもアクセスできるようにすることが望まれる。 ・バリアフリーを全面に押し出すのではなく、さりげなく、それでいてしっかりとこれまでに検討されてきたことに組み入れていくことが望まれる。 ・障がいを持つ方の意見を聞く機会は大変に貴重である。今後このような機会を重ね、しっかりと計画を検証していかなければならない。 ・ユニバーサルデザインを取り入れるということは、これからの時代の公立文化施設では大変に重要な視点となってくる。 ・男性トイレにもベビーチェア・ベビーシートが必要になってくる。今後、広くユニバーサルデザインについて考えていく必要がある。
防災					・自然エネルギーを活用、太陽光パネルを取り入れ、災害にも強いホールとする。	
駐車場		<ul style="list-style-type: none"> ・一般観客用にはいらぬという意見が多かった。 ・利用者が搬入物を安全に簡便に降ろすことのできる車寄せのスペースを関係者車両の通路に整備することでうまく流れができるようにし、車両の渋滞が起きないようにする。 ・関係者用の駐車場はきちんと確保することが必要。 				
前庭		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの検討のほとんどが建物に集中しているが、お堀から30mセットバックして建物を建てるのであれば、前の広場を有効に使うことを考えた方がいい。 ・建物の中に全ての活動を押し込むというのは無理がある。広場を上手く活用し、施設内のウエイトを減らすことができるのではないだろうか。その議論がされていない。 				
景観			・できるだけ建物高さが低い建物としたい。			

項目	小項目	1班	2班	3班	4班(機能については他班と同意見)	専門委員コメント
その他	倉庫	・ピアノを収納する倉庫が欲しい。				・ピアノ庫は、新しいホールには問題なく計画される。今後の課題は、ピアノを何台整備するのか、また舞台までの動線についても検討する必要がある。
	事務所	・舞台設備については、様々な意見がだされた。 ・舞台技術スタッフには、専門的な人が欲しい。 ・商店街との連携を考えていきたい。高円寺の例も参考にしたいが、小田原市の店舗にアート作品を置き、イベント化されるような形を考えている。そういったことを行わないと利用者が増えないと思う。 ・ホール運営の為に財団を創っていただきたい。 ・ガラスで覆われているようなホールが必要なのか。ホールを利用する時には外光を遮断しているので、普通の照明を備えればよいのではないか。 ・クロークがあると主催者側の負担になるのでいいのではないか。その代わりにお金の返ってくるコインロッカーを設置して欲しい。	・全体的に整備コストを極力かけない。 ・緊急時に使用できる部屋、救護室、託児室などを計画する。 ・今後の文化政策が明らかでないので意見は分かれたが、文化政策が決まればそれに従って決めていくことができる。	・コストの問題はあるが、色んな意見を出し合い、その中から一番よいものを選択し、あまりコストにこだわらないようにした方がよいのではないか。可能なものは造っていくという考え方で進めて欲しい。 ・ホールの建築音響の考え方、音響設備だけでは解決できない。特に冬場の厚着はタプーなので、クロークをしっかりと整備してほしい。 ・お客さんの中で具合が悪くなった人の為に置の部屋があればいいのではないかという意見が出た。休憩室としてだけでなく、茶室として利用したりなど、多目的に利用できたらいいのではないか。	・映画会を行いたい。 ・小田原の木材をふんだんに使ったホールにした い。 ・遊び心のある建物にしてほしい。 ・市民がお金をかけずに文化に触れられる事業や設備と、きちんと収益がとれる事業の両方とも行いたい。	・舞台芸術に関心を持たない方々がどうやったら劇場に足を運んでくれるかが重要である。30%の方が舞台芸術を好きだという一方で、70%の市民は無関心であったり興味がなかったりする。残りの70%の人にどうやって足を運んでもらうかというのを考えると、アーカイブスやレストラン、オープンカフェなども整備することでその仕掛けになる。また、そのことによって地域に根差した施設づくりを行なっていくことが、これからの公立文化施設の大きな役割だと考える。 ・市民が利用する施設や機能への関心が高いが、その活動を支える市民が一般には利用しない部分、そこが“公の施設”では疎かになりがちである。裏方の機能もしっかりと整備できないと、市民利用機能は十分に支えていけない。 ・ハードを支えるのはソフトだが、ソフト・運営面だけでも成り立たない。そのためには裏方部分の機能が重要になる。 ・文化施設が今後どのように変わっていくかということを考えてる一方で、舞台芸術の有り方も今後どのように変化していくのかということを考える必要がある。 ・これまでの公立文化施設では、大迫、小迫、廻り舞台、脇花道があるというのが定番だった。しかし、今日ではそのことだけが必ずしも定番ではなくなってきている。 ・舞台芸術の表現スタイルは、どんどん変わってきている。ダンスや映像などでも、舞台芸術の表現が多様になってきている。 ・これからの「地域劇場」のあり方を考えると、どのような施設にしていくべきかということが少し見えてくるのではないか。 ・現代の建築技術では、コンサートにも演劇にも対応できるホールを創ることが可能であると考え。 ・行政が主導して施設や設備を決めるのではなく、こういったひとつの答えの出ない話し合いを重ねるということも重要である。 ・今回の検討でバックヤード、裏方部分の議論が進み、図面に落としした時に「これはどうなってる？」ということがないようにしたい。 ・有名な建築家だからといって、必ずしも使いやすい劇場ができるわけではない。こういった話し合いの成果をきちんと汲み取って計画を進めていくことが大切である。 ・座・高円寺は地下に建物の70%が埋まっている。そのため3月11日の地震ではほとんど揺れなかった。また、地下にあるので冬は暖かい。地下を活用したことのメリットはあったと考える。そのことから地下に諸室を整備するのもいい考えだと思う。 ・音楽ホールが横浜以西にはないとのことで、是非創るべきだと考える。ただし、音楽ホールに特化してしまうと、利用者は全体の30%程度にとどまる。音楽以外の70%を講演会、演劇、ダンス、その他音楽系と考えると、その需要をどうまかなっていくのかという課題がある。そう考えると特化しにくい部分はあるのではないか。
	その他					

※障がい者の団体のみなさんで、5班としてワークショップを行った。